

第3分科会—8

もっと 仕事 が したい  
Tôi muốn làm việc nhiều hơn

外国人介護職員

人材育成

職場定着

外国人介護職員の受け入れと育成について

広島県・広島市

とくべつようごろうじんほむ たにわのさと  
 特別養護老人ホーム 谷和の里

かいごしょくいん もりすえ じゅんじ

介護職員 森末 順次

山本 瑞貴

岡野 貴一

Address taniwanosato@katsugikai.jp FAX 082-812-2112

今回の発表の施設  
 またはサービスの  
 概要

昭和61年8月創立39年目。平均介護度4・平均年齢85歳。  
 定員 入所84床・ショートステイ18床。(いずれも多床室)  
 法人理念 「ホームは家庭、利用者は家族」

<取組み課題>

- ・外国人介護職員の受け入れ態勢が不十分で、どのように指導したらいいのかわからない。
- ・日本語が正しく伝わらない。
- ・外国人介護職員より夜勤ができるようになりたいと希望があった。
- ・介護技術面と日本語能力にサポートが必要。

<具体的な取組み>

- ・期間：令和6年7月から令和7年4月  
 ※現在もサポート継続中
- ・対象者：外国人介護職員 3名
- ・取り組み手順
  - ①介護技術向上に向けて
    - 1.事前アンケート実施
    - 2.谷和オリジナル介護レベル作成。  
 (5項目、5段階評価、1人夜勤想定)
    - 3.月に1回介護レベルの評価の開始。
    - 4.リン介護職員ケアコンテスト出場。
    - 5.事後アンケート実施
  - ②日本語能力向上に向けて
    - 1.新聞のコラムの書き写し開始・終了
    - 2.「にほんごをまなぼう」開始
    - 3.専門用語を使わず、配布資料にふりがなをつける
    - 4.日本語能力テストN3受験(12月)
    - 5.専門用語の語彙、使い方の理解を深める
- ・評価方法：谷和オリジナル介護レベル
- ・取り組み職員：谷和の里全職員 72名
- ・ポイント：評価者が評価基準を統一認識する事。  
 毎月1回の介護レベル評価後に、評価者が集まり現在の進捗状況と来月の目標について情報共有を行う事。  
 にほんごをまなぼうの学習状況を把握し声掛けを行っていく事。

<活動の成果と評価>

- (外国人介護職員の変化)
- ・3名とも平均して2以上の介護レベル上昇。
  - ・日本語能力も徐々についていき、コミュニケーションが円滑に行えるようになってきた。
- (指導に携わっている職員の変化)
- ・介護技術の見える化をすることで、取り組むべき課題と目標が分かり指導しやすくなった。
  - ・意識して専門用語を使わずに話すことで、外国人介護職員に言葉が伝わりやすくなり、職員の自信に繋がった。
- (全体的な評価)
- ・取り組み当初は一方向的な支援になっており、長続きせず中止となる事があった為、取り組みを開始する前に施設側の求める事と、3名の目標に沿った支援方法を考え実践する必要がある。
  - ・介護レベルの見える化でどの職員がみても次に必要な指導内容や課題が分かり、お互いが共通の目標に向かって取り組めた。
  - ・日本語を教えるなどの専門外の事については経験がなかった為、ウェブサイトを利用したり既に外国人介護職員の受け入れに注力している他施設に相談をしていく。

<今後の課題>

- ・介護福祉士の資格取得希望も出てきた為、専門用語へ変換し使えるようになる。
- ・夜勤中の緊急対応などができるようになる。
- ・介護未経験の新規入職者にも活用していく。

<参考資料など>

にほんごをまなぼう～日本の介護を学び、現場で働く外国人のため <https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/>  
 ※利用者様の写真を使用させて頂く事、サイトを紹介する事に関しては事前に承諾を得ています。